

スイートピー育成系統の特性

1. はじめに

暖地園芸センターでは、これまでに薄い花色で落蕾の少ない4品種「ブライダルピンク（登録名：紀州ピー1号）」、「キャンドルピンク（登録名：紀州ピー2号）」、「スイートルージュ」、「紀のウェディングベル」を育成し、平成17年度より県農業協同組合連合会を通じて種子の供給を開始しました。当センターでは、引き続き現場からの要望が高い花色を持つ品種の育成に取り組んでおり、今回はその中から有望と思われる系統について特性を紹介します。

2. 試験方法

育成4系統（春咲き系1系統、冬咲き系3系統、写真1）と対照品種「スーパーローズ（春咲き系）」、「ミセス・ダグラス・マッカーサー（以下「マッカーサー」、冬咲き系）」を供試し、2005年9月14日に株間20cm、2条植えでは種し、1本仕立てとしました。種子は、春咲き系は30日、冬咲き系は16日の冷蔵処理をしました。冬季は最低夜温5℃で管理し、調査時の切り花階級は県農出荷規格に準じました。

3. 育成系統の特性

(1) 花色は、「No.9」がクリーム、「No.11」がサーモンピンク、「No.12」がローズピンク、「No.13」が淡紫です（写真1）。

(2) 収穫始めは、「No.9」以外の系統で11月下旬であり、「No.9」は12月上旬でした。

(3) 株当たり収穫本数は、育成4系統とも「マッカーサー」より多く、スーパーローズと同程度でした（図1）。

(4) 切り花の階級比率は、「No.9」で4P2L率（切り花長が45cm以上で4輪以上着蕾）が86.6%と最も高く、「No.9」、「No.12」および「No.13」の3系統は、「スーパーローズ」、「マッカーサー」より4P2L率が高くなりました（図2）。

4. おわりに

今回紹介した育成4系統については、現地試作も実施しており、特に「No.9」は収穫本数が多く、収穫初期から4P2L率が高いと評価を得ています。さらに現地への普及に向けて、開花特性等を調査していきます。

（育種部 村上 豪完）

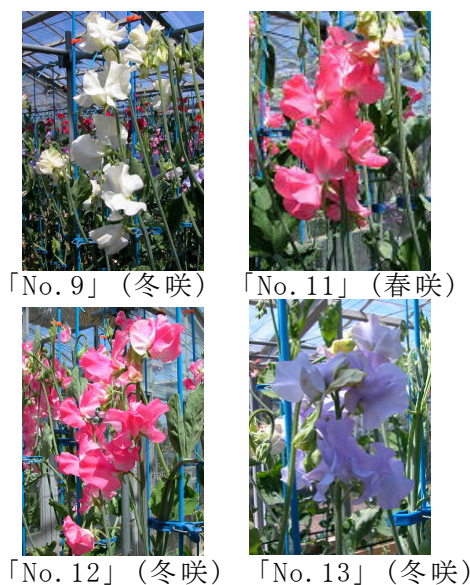


写真1 育成系統の開花状況

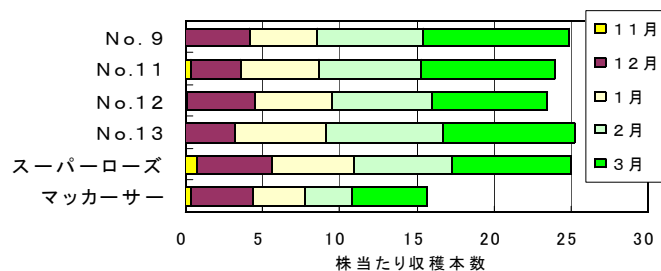


図1 育成系統の株当たり収穫本数

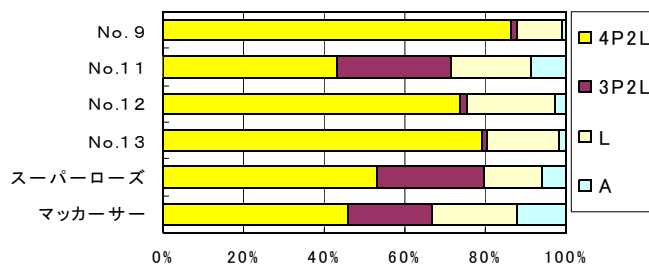


図2 育成系統の切り花の階級比率